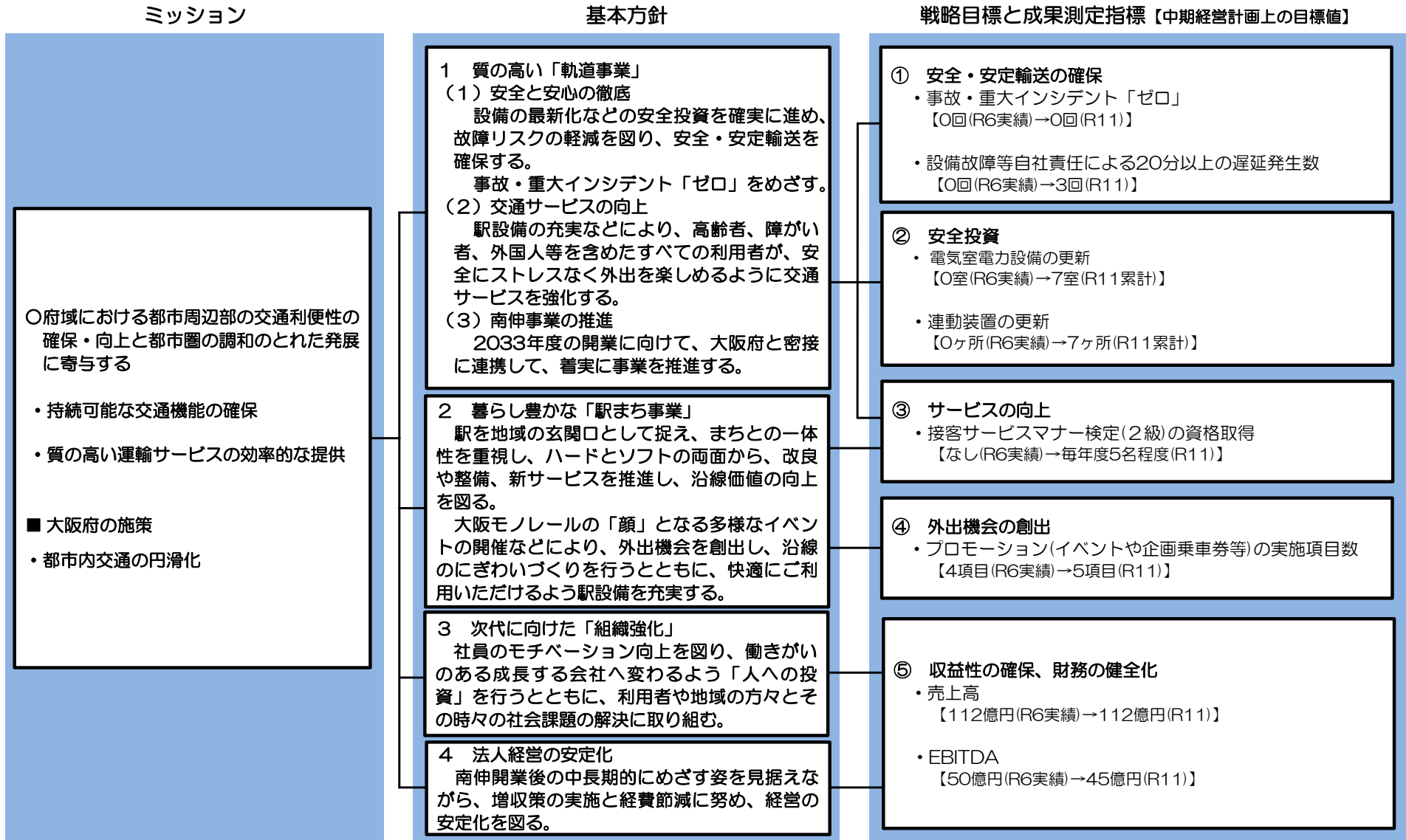


法人名	大阪モノレール株式会社
作成 (所管課)	都市整備部交通戦略室鉄道推進課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和7年度の経営目標達成状況及び令和8年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 〔見込値〕	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R7～R11)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
											R8 目標値	最終年度 目標値	
① 安全・安定輸送の確保	事故・重大インシデント「ゼロ」		件	0	0	0	30	30	0	30	0	0	鉄道事業者は安全・安定輸送が最大の使命である。 ・安全投資や維持修繕を確実に実施することにより、安全・安定輸送を確保する。 ・常に安全教育・訓練を実施し人材育成を行うことにより、安全マネジメント体制を強化する。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)												戦略目標達成のための活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	大阪モノレールは、「安全な鉄道」として、お客さまから信頼される公共交通機関をめざすことが使命であることから、事故・重大インシデント「ゼロ」を最重点目標とした。 ※事故：軌道事故等報告規則第一条第一項に定められた事象をいい、運転事故等報告書(第一号様式)により近畿運輸局へ報告したものの ※重大インシデント：軌道事故等報告規則第二条に定められた事象のうち、運輸安全委員会設置法施行規則第四条に掲げた事項 (運輸安全委員会の調査対象となるもの)												
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	1. 計画的な安全投資の実施 ・故障リスクの軽減を図り、安全・安定輸送を確保するため、計画的に老朽化した設備の更新を実施する。 2. 実践的な安全教育・訓練 ・R7年度は、非常時合同訓練、テロ対応訓練、情報伝達訓練(対策本部運営訓練)及び過去事例に基づくディスカッション研修など、実践的な訓練・教育を実施し、社員一人ひとりの対応力のさらなる強化を図った。 ・R8年度も、引き続き上記訓練・教育を実施し、社員一人ひとりの対応力をさらに強化する。												
活動方針	1. 計画的な安全投資の実施 ①最新設備への更新投資 ②施設の更新・改良 2. 実践的な安全教育・訓練 ①社員一人ひとりの対応力強化 ②組織の情報連携強化・地震発生時の対応力強化 ③過去事例に基づくディスカッション研修 ④委託会社等との連携強化												
												1. 計画的な安全投資の実施 ①最新設備への更新投資 1室更新(2月) ・電気室電力設備の更新 1ヶ所更新(3月) ・運動装置の更新 1箇所更新(3月) ・分岐器関連機器の更新 1箇所更新(3月) ・運転士支援モニタの新設 12駅新設(7月) ②施設の更新・改良 ・車両部品落下防止対策 4編成更新(1月) ・車両改造 1編成(9月) 2. 実践的な安全教育・訓練 ①社員一人ひとりの対応力強化 大規模災害・事故、テロ発生時などにおけるお客さま救出(避難誘導)等の社員一人ひとりの対応力強化を図るため、大阪府・消防・警察などと合同で、非常時合同訓練(10月)、テロ対応訓練(1月)を実施する。R8年度も、引き続き上記訓練を実施し、社員一人ひとりの対応力をさらに強化する。 ②組織の情報連携強化・地震発生時の対応力強化 大規模災害発生時における業務運営上の対応可能者把握のための社員の安否確認をはじめ、大規模災害・事故、テロ発生時などに於ける情報連携を強化するため、津波防災の日訓練(11月)、非常時合同訓練(10月)、テロ対応訓練(1月)を実施する。 さらに、情報伝達訓練(対策本部運営訓練)(12月)を実施し、被災度推定システムの運用確認を行う。 ③過去事例に基づくディスカッション研修 過去に経験した自然災害(地震・台風)を風化させないため、継承を行うとともにメカニズムを知り、今後の対応力向上を狙った社内研修を実施する。 ④委託会社等との連携強化 点検や工事におけるトラブルの未然防止および再発防止を図るため、工事請負者と合同で技術部施工計画検討会を工事発注の都度実施する。	

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 〔見込値〕	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R7~R11)		R8目標設定の考え方 (数値の概観) ※累積数値による目標設定の 場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
											R8 目標値	最終年度 目標値		
① 安全・安定輸送の確保	設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生数		回	0	3	1	10	10	↓3	10	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 設備故障等自社責任による遅延発生回数が少ないことは安定輸送の確保につながることから、遅延回数を指標とする。 20分以上は、国への報告義務の30分以上より厳しい目標値としたためである。 長期的な数値をもとに設定した中期経営計画の「3回以下」をR8年度の目標値とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 未然防止策はもとより、事後対応力強化のため実践的な教育訓練を実施する。 大阪府・消防・警察と連携した非常時合同訓練、テロ対応訓練 情報伝達訓練(対策本部運営訓練) 輸送障害により不通区間が発生した場合の折り返し運転訓練
② 安全投資	新型車両への更新		編成	2	1	1	5	5	—	—	—	累計1	—	—
	電気室電力設備の更新	☆	室	(0)	—	(1)	—	—	1	5	—	累計7	<ul style="list-style-type: none"> 電気室の電力設備は、安全・安定輸送に関わる重要設備であることから、安全投資の指標とする。 	安全を最優先に確実な工程管理を行い、R8年度に1室の更新を完了する。
	分岐器制御盤の更新		台	(0)	1	1	5	5	—	—	—	累計3	—	—
	連動装置の更新	☆	ヶ所	(0)	—	(1)	—	—	1	5	—	累計7	<ul style="list-style-type: none"> 連動装置は、安全・安定輸送に関わる重要設備であることから、安全投資の指標とする。 	安全を最優先に確実な工程管理を行い、R8年度に1ヶ所の更新を完了する。
③ サービスの向上	接客サービスマナー検定(2級)の資格取得		名	(0)	4	4	10	10	5	10	—	毎年度 5名程度	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する利用者への対応力を強化し、ワンランク上のサービスを提供するために中期経営計画期間内(R7~R11年度)に毎年度5名程度の接客サービスマナー検定(2級)資格の取得をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> R7年度までは駅助役を担うプロパー社員を対象としていたが、R8年度は将来的に駅助役を担う可能性のある社員を含めた、5名のプロパー社員の資格取得をめざす。 <参考> 接客サービスマナー検定とは、「特定非営利活動法人日本サービスマナー協会」が主催し、ワンランク上の上質な接客サービスが求められる分野での人材の育成を目的とした民間資格である。
④ 外出機会の創出	プロモーション(イベントや企画乗車券等)の実施項目数		項目	4	5	5	10	10	5	10	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、デジタルチケットの発売などにより、外出機会を創出し、利用者数の増加につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> R8年度に下記5項目のプロモーションを実施する。 「万博鉄道まつり」の開催 イベント列車の運行 沿線企業・学校・自治体との連携したイベントの開催 「音楽&マルシェ」の開催 関西Maas等を活用した企画乗車券の発売

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

⑤ 収益性の確保、財務の健全化	売上高(軌道業営業収益+兼業事業営業収益)		億円	112	112	[117]	10	10	↓115	10	111	112	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安定輸送を継続し、運輸収入を確保する。 駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、デジタルチケットの発売などにより、外出機会の増加につなげ、売上高を増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な安全投資の実施(再掲) 実践的な安全教育・訓練(再掲) 外出機会の創出で挙げた5項目のプロモーションを実施する(再掲)
	EBITDA(営業損益+減価償却費+固定資産除却費+長期前払費用)		億円	50	48	[51]	20	20	↓45	20	46	45	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資計画の実現と南伸に向けた投資への備えのために、営業活動で生み出されたキャッシュフローであるEBITDAを指標とする。 	安全・安定輸送を図るため、設備投資や修繕などを確実に実施するとともに、交通サービス投資においても、財務の健全性を考慮しつつ、実施時期を見直しながら進める。

R7得点合計
〔見込得点合計〕

[100]

【凡例】

- ☆はR8年度からの新規項目
- ×は目標値未達成
- ↓は前年度実績比マイナスの目標値
- [] 内の数値は、参考として記入した実績見込値
- () 内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名	大阪モノレール株式会社
-----	-------------

CS調査の実施概要

○令和7年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	(1)委託会社 株式会社マクロミル (2)実施方法 インターネットモニターアンケートを保有しているアンケート調査会社（株式会社マクロミル）が、調査条件に見合った回答者を抽出して、調査を実施	下記の条件の中で、1年以内に大阪モノレールを利用したことがある京都府・大阪府・兵庫県在住者 ①大阪モノレールヘビーユーザー(週4日以上利用) ②大阪モノレールミドル・ライトユーザー(年1日以上～週3日以下) ③大阪モノレール以外の路線の沿線居住者	(1)回収サンプル数 スクリーニング調査回収数：38,345サンプル 本調査回収数：2,061サンプル (2)本調査回答者 ①大阪モノレールヘビーユーザー(週4日以上利用)：412サンプル(20.0%) ②大阪モノレールミドル・ライトユーザー(年1日以上～週3日以下)：546サンプル(26.5%) ③大阪モノレール以外の路線の沿線居住者：1,103サンプル(53.5%)	R8年1月26日(月)～ R8年2月2日(月)

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p><実施結果> 大阪モノレールの各種満足度（※）は、「列車運行の正確さ」が最も高く53.3%、次いで「駅構内の快適さ」の49.0%、「列車内の快適さ」の48.1%と続いた。 一方、満足度が低い項目は、「運賃」の22.2%、次いで「終電の時間」の33.7%、「ラッシュ時以外の列車の運行間隔」の34.6%と続いた。 （※）「とても満足/やや満足/ふつう/やや不満/とても不満/わからない」という選択肢から、「とても満足」または「やや満足」を選択した割合</p> <p><大阪モノレールの改善要望・希望> ○ダイヤ改正、運賃の変更 ■運賃を安くし、もう少し電車の本数を増やしてほしい。 ■他社線との乗り継ぎが良くなればよい。 ○設備・施設の改良 ■駅内にコンビニなどの店が増えたら、より便利で快適に利用できると思う。 ■今後期待することは、運行本数のさらなる充実や遅延時の情報案内の分かりやすさ向上である。加えて、駅構内の案内表示や多言語対応の強化が進むと、さらに利用しやすくなると期待している。 ○延伸 ■延伸工事が早く終わり路線が長くなれば行動範囲が大きく変わるので期待している。 ■自分の生活範囲にあり、買い物行く時に利用することはあるので、延伸してくれるのありがたい。 ○イベント ■これからもモノレールを通じて地域の発展や地域の人たちとの繋がりを大切にしたい快適なサービスの提供やイベント企画をもっと増やしてほしい。 ■他にないイベントや乗車しながら楽しめるイベントなどもあれば利用機会が増えると思う。 ○安全な運行 ■今後も、より安全で、安心な運行を期待する。 ■安全安心に努めてもらえば十分です。</p>	<p><大阪モノレールへの改善要望・希望を踏まえた取組> ○ダイヤ改正、運賃の変更 ■R8年3月14日(土)にダイヤ改正を実施した。 【平日】① 昼間時間帯の列車を増発（本線・彩都線） ② 門真市方面の一部区間において始発列車を繰り上げ 【休日】① 昼間時間帯の列車を増発（本線・彩都線） ② 夕方時間帯に列車を増発（本線） ■関西MaaS等を活用した企画乗車券を発売している。 ○設備・施設の改良 ■駅ナカコンビニをリニューアルした。 ■駅構内情報発信媒体の更新及び多言語放送システムを導入した。 ○延伸 ■公共交通ネットワークの拡充に向けて、採買性を確保しつつ、延伸事業を確実に推進する。 ○イベント ■国内最大級の屋外鉄道イベント「万博鉄道まつり」を開催する。 ■「大阪モノレールの日本酒列車」などイベント列車を運行する。 ■沿線の企業、学校、自治体と連携したイベントを開催している。 ■万博記念公園駅構内で「音楽&マルシェ」を開催している。 ○安全な運行 ■運動装置の更新及び電気室電力設備の更新を行う。 ■激甚化する自然災害対策として、車両部品落下対策を実施する。 ■非常時合同訓練、テロ対応訓練、情報伝達訓練（対策本部運営訓練）及び過去事例に基づくディスカッション研修など、実践的な訓練・教育を実施し、社員一人ひとりの対応力をさらなる強化を図っている。</p>

○令和8年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	未定	未定	未定	未定

■ 成果測定指標変更(廃止)希望の理由について

[1]

●変更前

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
新型車両への更新	編成	1

●変更後

R8年度の 成果測定指標	単位	R8年度の 目標値
電気室電力設備の更新	室	1

<p>成果測定指標の 変更(廃止)を 希望する理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・R7年度に新型車両への更新が完了したため、R8年度は安全投資の指標を優先度の高い「電気室電力設備の更新」に変更した。 ・安全・安定輸送のための弛まぬ取組みとして、更新時期を迎えた設備の最新化を行っている。 ・これらの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定輸送確保に努めるとともに、各年度で優先度の高い項目を安全重点施策として実行している。これらにより、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしている。
---------------------------------------	---

[2]

●変更前

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
分岐器制御盤の更新	台	1

●変更後

R8年度の 成果測定指標	単位	R8年度の 目標値
連動装置の更新	ヶ所	1

<p>成果測定指標の 変更(廃止)を 希望する理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分岐器制御盤の更新は、R8年度に実施予定がないことから、安全投資の指標を「連動装置の更新」に変更した。 ・安全・安定輸送のための弛まぬ取組みとして、更新時期を迎えた設備の最新化を行っている。 ・これらの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定輸送確保に努めるとともに、各年度で優先度の高い項目を安全重点施策として実行している。これらにより、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしている。
---------------------------------------	--

法人名

大阪モノレール株式会社

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生数	回	1	3

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>・設備故障等自社責任による遅延発生数については、国への報告義務の30分以上より厳しい指標としている。</p> <p>・そのうえで、長期的な数値をもとに設定した中期経営計画の『3回以下』をR8年度の目標値とした。</p> <p><参考> H28年実績 1回 H29年実績 2回 H30年実績 3回 R1年度実績 7回 R2年度実績 2回 R3年度実績 0回 R4年度実績 2回 R5年度実績 3回 R6年度実績 0回 R7年度実績 1回</p>
-----------------------------------	--

〔2〕

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
電気室電力設備の更新	室	1	1

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>・安全を最優先に確実な工程管理を行い、計画的な安全投資を実施していく。</p> <p>(参考) R7年度実績 細部検査場 R8年度予定 指令所</p>
-----------------------------------	--

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[3]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
連動装置の更新	ヶ所	1	1

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>・安全を最優先に確実な工程管理を行い、計画的な安全投資を実施していく。</p> <p>(参考) R7年度 南茨木駅 R8年度 万博記念公園駅</p>
-----------------------------------	---

[4]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
プロモーション(イベントや企画乗車券等)の実施項目数	項目	5	5

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、デジタルチケットの発売などにより、外出機会を創出し、利用者数の増加につなげる。</p> <p>・R8年度も下記の5項目を大きな柱としつつ、各実施項目の内容をブラッシュアップし、より効果的な集客施策の実現に向け、引き続き取り組んでいく。</p> <p>※R7年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「万博鉄道まつり」の開催 1回開催 ・イベント列車の運行 14回運行 ・沿線企業・学校・自治体との連携したイベントの開催 28回開催 ・「音楽&マルシェ」の開催 38回開催 ・関西MaaS等を活用した企画乗車券の発売 9種類発売
-----------------------------------	--

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[5]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
売上高（軌道業営業収益+兼業事業営業収益）	億円	〔117〕	115

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>・軌道業営業収益について、R7年度の大阪・関西万博特需が終了したことにより、R8年度は反動減を受けてマイナス目標となる。R7年度の大阪・関西万博特需や万博記念公園で開催された大規模イベントによる効果が約2億円だったと見込んでいる。</p> <p>・そのような状況のなかでも、駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、デジタルチケットの発売などにより、外出機会を創出し、利用者数の増加につなげる。</p>
--	--

[6]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
EBITDA（営業損益+減価償却費+固定資産除却費+長期前払費用）	億円	〔51〕	45

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>・R7年度の大阪・関西万博特需の反動減を受けてR8年度の売上高が減少すること、車両重要部全般検査の対象編成の増等により修繕費が増加すること、昨今の人件費や物価の高騰により人件費や動力費が増加することに伴い、結果的にEBITDAが減少する。</p> <p>※売上高 R7年度 117.3億円（見込） R8年度 115.0億円 差額 ▲2.3億円</p> <p>修繕費 R7年度 18.2億円（見込） R8年度 20.6億円 差額 +2.4億円</p> <p>人件費 R7年度 22.2億円（見込） R8年度 22.7億円 差額 +0.5億円</p> <p>動力費 R7年度 5.2億円（見込） R8年度 5.7億円 差額 +0.5億円</p>
--	---